



真夏のような天気が続きますが、いかがお過ごしですか。庭先や花屋の店先には、色とりどりの花が美しく咲き誇っています。小学部では花がたくさん咲くこの時期に草花を慈しみ、感謝する心を育むべく、「花の日」の行事を実施してまいりました。

花の日は、もともとキリスト教の行事ですが、本学院では幼稚園が昭和28年にこの行事を始め、その後、小学部も参加して今年で67回目を迎えます。これも保護者の皆様のお蔭と感謝いたしております。

今年も日ごろお世話になっている官公庁・病院・交通機関等にお花をお届けしますので、ご家庭で咲かせたお花を綺麗にラッピングしたものか、子どもたちのおこづかいで求められる程度の花束のご寄贈をお願い申し上げます。

持ち寄った花を通して、外部の方々との心の触れ合いを体験することで、子どもたちの心がより豊かに育つことを期待しております。

## 「花の日」訪問について

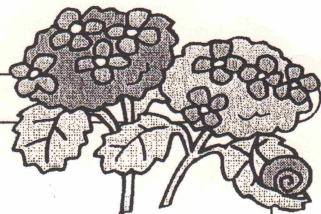
花の日は、6月9日(日)ですが、花の日訪問は、6日(木)に行います。各クラスで「花の日」集会終了後、施設・機関等を訪問いたします。

- ・訪問は、1～5年生が担当します。
- ・お花は、児童全員が持ち寄りますのでご協力をお願いします。

6年生のお花は、2・3・4年生がお預かりしお届けします。



## 花の日の由来



1856年、米国マサチューセッツ州チエルセアの牧師、チャールス・H・レオナルド博士が、少年少女を信仰に導くための宗教教育を強調する日として、6月の第2日曜日に特別礼拝を行ったのが起源といわれています。年間を通して一番花の豊富なこの季節に、神を賛美し、神に感謝することを教えるために神の恵みのあらわれとして教会に美しい花を飾ったことから「花の日」・「子供の日」といわれるようになりました。

1881年、メソジスト教会では、6月の第2日曜日を毎年「子供の日」として定め、その後当時の教会内に広まり、次第に全世界に普及したということです。